

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成19年 6月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4672700129
法人名	有限会社 圭友
事業所名	高齢者グループホーム 花心家
所在地	鹿児島県川辺郡川辺町下山田1726-1 (電話) 0993-57-2113
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島県鹿児島県真砂本町21-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年6月10日

【情報提供票より】(平成 19 年 5 月 15 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	8.2 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(140,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成 19 年 5 月 15 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人蒼風会児玉病院 ・米澤内科クリニック ・かわなべ共立病院 ・川路歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の広がる地域集落の中に位置し、建物は民家の一部改築した日本古来の文化建築を活かしていることもあり、落ち着いた環境の下で家庭的な生活を支援している。日頃から地域との交流の機会や、見学者など来訪者も多く、利用者が社会との繋がりを継続できるようにしている。職員は「笑顔」「感謝」「一緒」の関係性と家族のような心のふれあいを大切に、家庭的な温かみのある対応を行なっている。日常生活の中にリハビリテーションを取り入れ、利用者の能力を引き出し、最大限に活かせるように支援している。また、入居者間の交流や趣味を活かすなど、それぞれの生活を楽しみながら過ごし、共に支えあう関係が築けるように取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価を生かし、権利・義務について、契約書や重要説明書等に具体的で分かりやすい形で掲載している。また、利用者の生活歴を活かした支援を行なっている。
重点項目②	自己評価の意義を理解し、職員全体でサービスの質の確保と質の向上を意識して取り組み、常に厳しい視点で自己評価を行ない、高いレベルでのケアをめざし自己研鑽を行なっている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議への取り組みは始まったばかりであり、議題や討議内容や運営推進会議の趣旨など、今後のグループホームの質の向上のために、活発な意見が反映できるように段階的に討議内容を検討しながら進めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	日ごろから家族との会話を大切にし、気軽に意見や苦情などが言えるような関係づくりを心がけ、意見・苦情について出来るだけ要望に応えられるように、話し合いながら取り組んでいる。また、事業所の母体である医療機関と連携を図り、利用者が安心して生活が出来るように取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会活動にも積極的に参加し、社会との繋がりを大切にしていることもあり、緊急時には地域の方が積極的に協力して下さるなど、地域との連携をうまく取っている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域力を生かし、認知症があっても人として安心・安全に、楽しくその人らしく地域で暮らし続けられるように理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念について、ミーティングや日々の申し送りの中で共有し、人としてどのように関わっていかなければならないか、常に各自が理念を踏まえ、ケアを振り返りながら理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	開設前より、グループホームの役割や機能について地域で話し合いや勉強会を行ない、ホームについての理解を深めるように努力し、地域の行事や共同作業などにも積極的に参加している。また、隣に公民館があり、公民館での集会へ参加するなど、地域に根ざした交流を積極的に行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体でサービスの質の確保と質の向上を念頭に、日々努力している。常に、ケアのあり方や対応の見直しを行ない、気づきを大切にし、サービスの改善に積極的に取り組んでいる。外部からの研修や見学なども積極的に受け入れ、外部の方の気づきをケアに活かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域性を生かしたホームのあり方について、地域住民や家族の代表・行政関係者などの意見をサービスに活かしている。また、地域の専門性や地域力を高められるように、運営推進会議の機会を活かした取り組みに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者と、電話やインターネットを活用した連絡や情報の共有・意見交換を行なっている。しかし、市町村担当者に働きかけてはいるが、市町村の訪問はこれまで行なっていない。	○	今後も市町村に積極的に働きかけ、ホームの考え方や実態を把握し、顔の見える関係性など積極的な連携を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人一人に担当職員を決め、2ヶ月に1回担当職員より家族へ手書きの手紙を送り、写真などを添えて近況報告を行なっている。また、家族があまり来られない方には、随時電話などで報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから家族との関係性を大切にし、訪問時は積極的に声をかけ、意見や要望などを聴くようにしている。しかし、家族会は無く、事業所以外の外部の人に、家族等が意見や苦情を表せる機会や場が不足しているように見受けられた。家族会について現在検討中である。	○	家族会等事業所以外に、意見や要望・苦情が表せる機会をつくり、運営に家族の意見が反映できるような取り組みが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、入職者には認知症やグループホームについて、また、事業所の方針についてなどの新人教育を行った上で、慣れるまでは職員二人で対応を行なうようにしている。日ごろから、近隣の住民や見学者・実習生も受け入れているが、事前に来訪者についての説明を行い、利用者のダメージを軽減させるような取り組みを行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員の能力に応じた教育を行ない、同事業所間の研修も積極的に行っている。また、管理者が外部の研修に参加し、報告書を作成しミーティングの時に研修報告を行なっている。しかし、管理者以外の職員は外部研修にはほとんど参加しておらず、内部のみの研修参加にとどまっているようである。	○	今後は内部研修にとどまらず、積極的に外部の研修に参加する機会を増やし、職員のスキルアップやき気づきの機会を増やすことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区高齢者グループホーム連絡協議会に加入し、意見交換などを行なっている。また、近隣に5箇所のグループホームがあり交流もある。同業者の見学も積極的に受け入れ、同業者の相談にも応じるなど同業者のリーダー的存在としての役割をもち、常にサービスの質の向上に向けた取り組みを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず入居予定者と家族に見学に来てもらい、部屋や周辺を散歩したりし、環境が本人に合うかを検討し、本人が納得した上でサービスを利用してもらうようにしている。本人が納得してからサービスを利用してもらっていることもあり、馴染むのも早いようである。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「笑顔」「感謝」「一緒」の関係性と家族のような心のふれあいを大切に、共に支えあう関係を築けるように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情など細かい観察から、利用者の心情なども理解できるように努めている。職員は利用者の思いを大切に受け止め、利用者を中心とし柔軟に希望に副った支援が出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴や能力を活かし、利用者や家族の意見や希望を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、随時状況に応じた介護計画見直しや確認を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居時に、事業所の機能など出来る支援について説明を行なっているが、利用者や家族の状況や希望に応じて柔軟に対応を行なっている。例えば、外出支援や通院支援は基本的には家族にお願いしているが、家族が遠方で訪問が困難な場合など、利用者や家族と話し合いながら柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、基本的に協力医療機関を利用している。歯科医に関しては、これまでのかかりつけ医を継続し受診できるように支援している。しかし、状況に応じて協力医療機関以外の受診の支援も行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居手続きの際に重度化や終末期について説明し、状況に応じてその都度家族に説明を行っている。ホームとしてはできるだけ見たいという思いはあるが、職員に看護師も不在であり、現在は終末期も含めたケアは困難である。しかし、ホームの母体が医療機関ということもあり、重度化や終末期に向けた取り組みについて、現在、体制作りを進めている。	○	現在、重度化や終末期を含めたケアについて準備を進めており、今後の職員の技術向上や医療連携体制づくりに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけや対応、記録物の管理など、個人情報の取り扱いについて慎重に行なっている。家族への便りなど写真を掲載する場合は、他の利用者の個人情報も考慮したうえで慎重に対応し、一人一人のプライバシーに配慮し対応を行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のその人らしさを大切に、利用者が主体的に考え行動が行なえるように支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓には旬の野菜を取り入れた料理が出され、食卓を囲んだ団欒の時間を大切にしている。食事は各自のペースで、利用者の嗜好に応じた個別的な対応を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ディサービスに行かれる方については、ディサービスの利用を配慮し、利用者の希望や状況に応じた対応を行っている。入浴もゆっくり楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力を活かし、利用者それぞれに応じた楽しみや潜在能力を引き出せるように、利用者を中心とした支援を行っている。利用者は思い思いに手芸をしたり、利用者同志の部屋を行き来し会話を楽しむなどしており、職員は過剰な支援を避け、見守りなど状況に応じた対応を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者や家族の希望に副い、自宅への一時帰宅や買い物など外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの構造上の特性を活かし、鍵をかけることなく常に開放的に対応している。利用者は自由にホーム内や周辺を行動することが出来る。地域の住民の協力もあり、開放的な対応を行っている。玄関にはチャイムを取り付け、人が通るとチャイムが鳴るようになっており、見守り支援をきちんと行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団・消防署・警察などの協力を得、様々な状況を想定した訓練を行っている。災害ではないが、緊急時には近隣の人々の協力が得られるなど、日ごろからのかかわりを大切にしている。しかし、災害時に備え、懐中電気は備えているが、飲食物など備蓄が不足のものもある。	○	災害は突然発生する為、今後も様々な状況を想定し、消防署・消防団・警察・近隣の住民や自治会等の協力を得ながら実践的な訓練の継続が望まれる。災害時の備品については、飲食物やその他の備品について早急に整えることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事前に献立票は作ってはいないが、作った料理のメニュー表を作成し、定期的に同事業所内の管理栄養士の意見を聞くようにしている。食事摂取量や飲水量が少ないときは、補助食品・好んで食べやすいもの・飲み物・水分が多く含まれる果物など工夫した支援を行っている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	既存の民家を利用しグループホームを開設した為、日本建築の良さを取り入れた居住空間である。縁側を活かし濡れ縁を設け、庭から見える景色をも活かした庭づくりを行っている。洗面所やトイレなど利用者の状況や希望を取り入れた配慮をしている。生活を通じて視覚と肌で季節感を感じる様に工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と利用者で話し合い、利用者がこれまで使い慣れたものを取り入れ居室に配置し、それぞれの生活様式を取り入れ支援を行っている。居室は居心地よい空間を作りだしている。		